チベット・ウイグル・南モンゴル・台湾の現状について知って下さい!!

絵：ORISE
文：山つゝじ

チベットはヒマラヤ山脈の北側に位置する海抜4千メートル超の大高原にあり，その地勢から長らく独自な文化や宗教を保ってきた。特にダライ・ラマを中心とするチベット仏教は，インド仏教直系で，チベット人全体の精神的な拠りどころとなっている。

チベットは1911年より正式な独立国家であったが，1949年に中国の侵略を受け占領された。1959年には蜂起したチベット人8万7千人が殺される事態となり，ダライ・ラマもインドに亡命を余儀なくされた。以降，多くの無実のチベット人が逮捕・拷問され，殺されている。海外に亡命する者も後を絶たない。とくに宗教に対する弾圧は徹底され，6千以上あった寺院は破壊されて僅か8つとなってしまった。また，多くの仏像が中国に持ち去られてしまった。2008年の3月，ラサで行われた平和的デモが武力で鎮圧された結果，抗議デモがチベット全体に拡がり，世界中に報道された。ダライ・ラマは対話を通じた平和的解決を望んでいるが，中国側の弾圧はゆるまる気配がない。

ウイグルは中央アジアのオアシス地帯にあり，昔から交易によって栄えた。ウイグル人はトルコ系の民族でイスラム教を信仰する。伝統音楽や踊りをとても愛し，羊肉をよく食べる。

1949年，中国に占領された結果，計46回に及ぶ中国の核実験場とされ，148万人が被ばくし，その内19万人が死亡した。ウイグル語が学校教育から排除され，宗教の自由も侵された。民族抹殺政策として妊婦に対する強制中絶や若者の中国内地への強制連行が大量に行われている。特に女性は売春や中国人男性との結婚を強要されている。2009年7月にウルムチで起きた平和デモは，前月に広東省で起きたウイグル人虐殺事件への抗議であったが，武力警察に直ちに鎮圧され，さらにデモに関係ないウイグル人までが殺害される惨劇となった。3日間で約5千人のウイグル人が虐殺され，1万人以上が警察や軍に連行されたまま行方不明となっている。

モンゴルは20世紀入って独立国家となり，古代に始まり現代まで続く遊牧の伝統と文化を受け継いでいる。

しかし中国に支配されたままとなった南モンゴルでは，大量の中国人が入植し，草原を次々と農地や都市に変えた結果，砂漠化が急速に進んでいる。遊牧生活の維持が困難になったばかりか，生活の糧を中国人に奪われる結果となった。北部の独立に際し，仏教の影響が大きいと認識した中国は，南モンゴルで2千の寺院を焼き払い，僧侶を殺害し，宗教を滅ぼした。20世紀に入って100万人に登るモンゴル人が中国人によって殺された。特に1968年以降，50種以上の拷問により32万人のモンゴル人が殺害されるか障害を負っている。そして中国による「民族を包囲して絶滅させる」政策は今も進行中である。

台湾と日本の関係は古く，終戦までの半世紀は日本の統治下にあった。現在も観光や経済，文化面での結びつきは強い。

戦後，中国での内戦に敗れ逃れて来た国民党によって「中華民国」が成立したが，その統治があまりにも酷かったため，相対比較から日本の統治時代が評価されることもある。このとき大陸から渡って来た人を外省人，それ以前から台湾にいた人を本省人と呼ぶ。台湾は実質上の独立国家であるが，日本が領有権を手放したあとの法的帰属は決まっていない。中国は「一つの中国」を掲げて台湾の領有権を主張しているが，民主化された現在の台湾では「独立」の声も小さくない。沖縄に近い台湾は日本の安全保障上の重要地でもあり，その将来に対して日本も無関心ではいられない。